

女子生徒等の理工系への進路選択を応援



理工系分野における女性の割合は、全体に対してどれくらいご存じでしょうか。

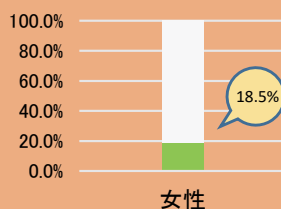
「科学技術研究調査」によると、日本における女性研究者の割合は18.5%と、年々女性研究者の割合は増えているものの、まだまだ低い水準で留まっています。また、大学における女性比率も理学系で28.3%、工学系で16.7%と、理工系分野で活躍している女性が、男性と比べても非常に少ないことがわかります。

女子の理系回避の原因は理数系科目の学力不足ではなく、周囲の女子の進学動向、親の意向、ロールモデルの不在等の環境が影響していると考えられます。女性・男性に関係なく、理工系分野でも本来の実力を発揮できる社会に向け、まず、私たち大人が性別による思い込みをあらためるところから始めませんか。

進路選択の段階で大切な未来をあきらめてしまわないように、子どもたちを応援したいですね。

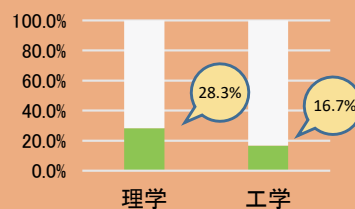
日本の理工系分野の現状

日本の研究者に占める女性の割合



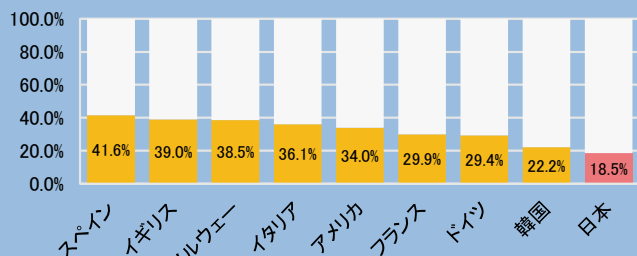
出典：総務省「科学技術研究調査」(令和6年)

専攻分野別に見た女子学生の割合(学部生)



出典：文部科学省「学校基本調査」(令和6年度)

諸外国の研究者に占める女性割合



(備考)

- 総務省「科学技術研究調査」(令和6年)、OECD「Main Science and Technology Indicators」、米国立科学財団(National Science Foundation: NSF)「Science and Engineering Indicators」より作成
- 日本の数値は、2024(令和6)年3月31日現在の値。アメリカ、イギリスは2019(令和元)年値。その他の国は、2021(令和3)年値。推定値及び暫定値含む。
- アメリカの数値は、雇用されている科学者(Scientists)における女性の割合(人文科学の一部及び社会科学を含む。)

※数値は2025年1月8日確認時点

内閣府

理工チャレンジ
(リコチャレ)サイトはこちら

<https://www.gender.go.jp/c-challenge/>



女子大学院生と
一緒に楽しもう！

紫キャベツでカラフル実験！

本市では、女子中・高生・女子学生の皆さんが理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージして進路選択(チャレンジ)することを応援するため、「理工系進路応援講座」を実施しています。

大阪公立大学理系女子大学院生チームIRISのメンバーと一緒に、実験を楽しみましょう！

とき

令和7年11月8日(土) 午前10時～12時

場所

クロスパル高槻4階 401会議室

詳細はHPからご確認ください。(参加には申込が必要です。)



※本情報紙が発行された時点で、申込終了している場合もあります